

修しゅう孔こう子こ廟びょう碑ひ

大業七年(611)
(隋時代)

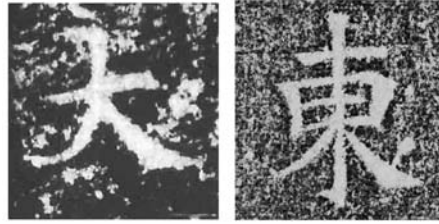
古い書法様式の刻石⑦

木 雞

木 雞 室

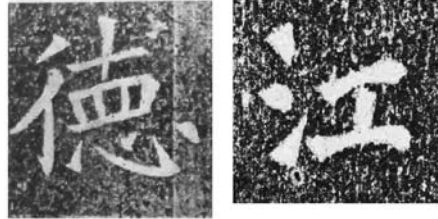
伊 藤 滋

図版②-1 隋碑六種



D

A



E

B



F

C

山東省曲阜の孔子廟は、儒教の祖である孔子を祀る聖地である。そのため漢代から近代まで長きにわたり夥しい碑が建立されてきた。漢の隸書の「礼器碑」「孔宙碑」「乙瑛碑」「史晨碑」などの歴代の書の名品は、孔子廟に関するものである。今回取り上げた「修孔子廟碑」もその中の一である。隋時代に陳叔毅という名の人物が、孔子廟を修理したこの事績を記した碑である。多くの孔子廟碑があるために、陳叔毅の名を冠

して「陳叔毅修孔子廟碑」とも称する。一般に隋時代は、その後の唐時代と共に楷書が最高に隆盛を極めた。そのためこのような古い様式の書は、現代では注目する人は少ない。書体は、起筆も漢の隸書の様に逆筆を示している。波磔も八分の特徴を上手く表現している。完全な隸書体である。隋時代は図版②の上に示したようにA「智若誼碑」B「寧ケン碑」C「龍藏寺碑」D「啓法寺碑」E「蘇孝慈墓誌銘」F「龍華寺碑」

図版②-3 王基断碑



図版②-2 修孔子廟碑



などの端正な楷書が、多くの書物に示されている。子細にこの隋時代の碑刻の書を調べると、「修孔子廟碑」のような隸書の碑刻も割合多く探すことが出来る。北魏末から次第にこうした古い隸書体を取り入れた様式は、次第に完成されてくる。漢の隸書よりも、やや後の三国時代のやや定型化した隸書に近い。図版②の下には、「王基断碑」との比較図版を示した。起筆、波磔、左下への払いなどは「王基断碑」の用筆と大変近い

が、文字全体の趣は、独自の風を示している。

次号は、褚遂良の父である「褚亮碑」です。この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。私宛に直接メールで、また編集部宛にお送りいただければ幸いです。

伊藤 滋 メールアドレス

mokkei@galaxy.oon.ne.jp

大隋炎靈啓運翼
下降主繼大庭之
高蹤紹唐帝之遐
統憲章古昔禮樂

書道芸術院

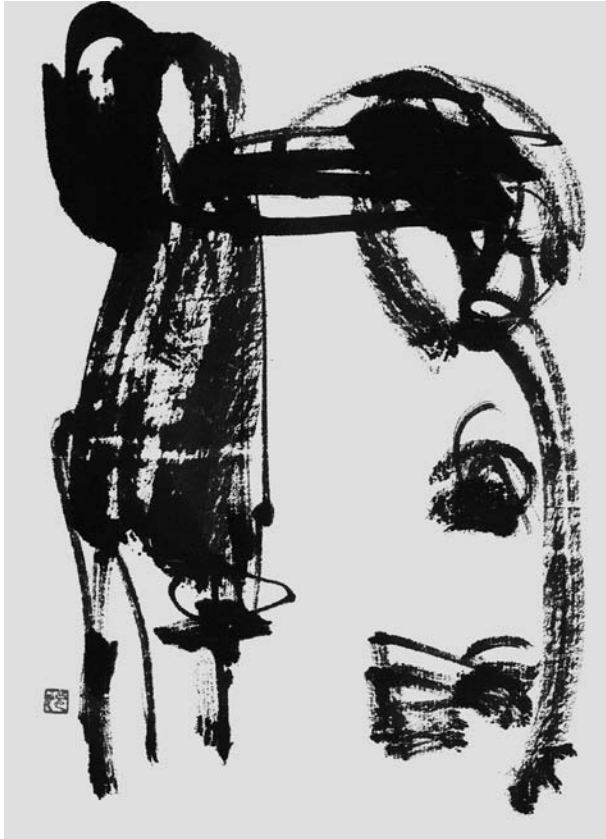
平成の群像 (2012)



三森 慧香

とうや 「陶冶の本意に思う」

受け売りは足の早さに価値があり、うなので良し悪しの責任は負うとして、熱いうちに。私はその昔、春蘭先生に「あなたなら書けるわよ」とおだてられ、今また倫子先生に「今が一番書けるわよ」と二代にわたる先生のお言葉を帆に受けてゆるりと進む毎日。



開く 17cm×12cm

は、人を教え導くので、「冶」は立派なものに仕上げることなのだそうです。お話を伺った方は、良い材料をしっかりと探し出し、さらにそれを吟味し、細心の注意をもって立派なものに仕上げていくという意味だと力説しておられました。

ゆるりと進む私は進路と風を与えてくれた両先生の励ましに陶冶の本意を今更ながら悟った次第なのです。

私の航海はいつまで続くのか？ 書けるのはいつなのか？ そのための自分が持つ良い材料とは？ それらで苦しみながらも白と黒が生む無限性に心踊った昔日の自分を思い起こしながら、一本の直線、一本の曲線、一つの飛沫を大切に、変化を問う姿勢を維持し、先生の励ましを背に陶冶するべくゆるりと努力したいと思っております。

そうは申しませんが、新鮮な気持ちで新鮮な作品を書くということはそうたやすい作業ではありません。それゆえに少し乱暴な言い方ですが、自分の可能性を絞り出すつもりで書きまくるのが急がば回れ式で最善の方法と心得ました。絞り出すとゆるりは両立しないようですが、私としては手を緩めず、結果をあせらずに、日に新たなりで前方と向き合うことだと解釈し、帆に受けた「風」をさらさぬように日々調整しながら前進したいと考えているのです。

掲載作のモチーフは扉を開ければそこに、との希望を持つ自分の心です。

書のひろば

理事長 辻元大雲

創立記念日講演会盛會に

本院創立は昭和22年11月23日、この日を記念して毎年著名人に講演をお願いしているが、本年は毎日新聞主筆、テレビでもおなじみの岸井成格氏を講師にお招きして、上野精養軒にて開催した。当日は午前中に財団法人書道芸術院理事会及び評議員会を開催、公益法人移行に向けての審議などを行った。午後2時からの講演会は「総選挙と混迷政局の行方」を演題に約200名の聴衆で盛況。最新の国政状況を、ユーモアを交えながらお話しいただいた。終了後創立記念日を祝して懇親会が賑やかに開催された。



講演をされる岸井成格氏

第64回全国学生書道展審査終了

今回より書道芸術院展と併催、主催団体も財団法人書道芸術院に改めて最初の全国学生書道展となった。6月初めに募集要項発送、11月1日搬入受付を行った。今回より半紙部門の他、「書の教室」誌上書初め展を受け継いで、半切2分の1サイズでの部門を新たに設けた。募集時期の変更などにより若干の減少ではあったが別表の通り多くのご出品をいただき感謝申し上げます。審査の結果、半紙部門、半切2分の1部門の各賞が決定した。

展示会場は東京都美術館書道芸術院展会場（B1～F2）七棟のうち一棟を使用し特別賞入賞作品を展示する。表彰式は2月17日（日）午前10時より都美隣の東京国立博物館平成館大講堂にて、東博島谷弘幸副館長の特別講義をいただいた後挙行する予定。東京都美術館講堂が館の都合により使用が出来ないこと、都美講堂の収容人員が

第64回 全国学生書道展出品状況

	半紙の部					半切1/2の部				
	合計	小学生	中学生	高校生	大学生	合計	小学生	中学生	高校生	大学生
出品点数	15,836	8,983	2,962	3,722	169	1,889	1,302	397	165	25
出品人数	9,677	5,094	1,661	2,845	77	1,743	1,226	351	149	17

180名のため会場を変更した。ご了承いただきたい。なお当日は東博平成館にて特別展「書聖王羲之」展が開催中（1月22日～3月3日）是非ご高覧いただきたい。

第15回国際交流ウイーン展盛會

本院四国支局谷脇梅翠参与会員が1984年からウイーン日本人学校校長を務められて以来書による現地市民との交流を開始され、離任されてからも活動を継続、本年15回目を迎えられた。会場はオーストリア・ウイーン日本大使館広報文化センターで、2008年からはスロバキア的首都ブラチスバヴァ市立美術館での指導も始められている。

本年は9月24日（月）～28日（金）まで開催。展示の他恒例のワークショップでは40余名の参加で盛り上がった。恩地春洋、辻元大雲はじめ院幹部も作品出品協力している。院としても海外交流として支援を行っている。

創立65周年記念北海道巡回展

ほぼ1年をかけて行ってきた創立65周年記念役員作品巡回展は最後の開催地、北海道札幌市大通り美術館にて11月27日～12月2日まで開催、齋藤雨城北海道支局長はじめ支局会員作品をまじえ展示。27日初日には初積雪、悪天候の中、院より恩地会長、理事長辻元下谷洋子常務理事が訪れ、現地の中野北溟、小原道城両先生などと交流、ご支援ご協力で感謝申し上げます。

全国13会場での役員作品巡回展は大きな反響を呼び、各地での会員展開催、作品解説会、揮毫会などの催しで大いに盛り上がり記念事業としての多くの成果をいただいた。関係各位に深く感謝申し上げます。

干支切手発売 小山鳳来先生揮毫

前号でお知らせしたが本院篆刻字部参与会員小山鳳来先生も下谷洋子常務理事と共にご揮毫されている。11月21日全国の郵便局にて発売。

1月7日～18日までアートサロン毎日にて「巳年干支切手揮毫作家展」が開催される。ご高覧を。

現代の書 新春展開催

2002年（平成14年）年から始まった「現代の書 新春展」は来年1月干支が巡って12年目の巳年開催となった。和光会場31人展、セントラル会場100人展は今回60歳以下の100名選抜である。新春を飾る恒例行事となり、銀座は書で賑わう。銀座かねまつホールでは竹扇会が新春東京展を5日から9日まで開催する。

- * 和光出品者 恩地春洋・辻元大雲
- * セントラル出品者 大隅晃弘・尾形澄神・工藤永翠・種谷萬城・田村鄭雲・千葉蒼玄・前田龍雲
- * 和光ギャラリートーク 6・10・12・13日 15:00より開催
- * 席上揮毫 6日（日）13:00～干葉蒼玄ほか、7・11・12日も開催

漢字 (三)

石田春窓

かな (三)

平川峰子

素材を選ぶ時は、ただ形のみを追求せず、線質、全体のバランス、意味、その字に対する想いを考えて選んできます。「積」は、つむ、つもる、ものを積み重ねる、の意で、今日迄長い間、書が続けられている事に感謝して選びました。

筆は少し硬い目の馬毛で、太く大きいのを使いましたので、紙に強く当たっています。

筆圧の変化を考えながら、力強く、

終筆は、軽く、運筆しました。

思う様に表現出来ていませんが、迷った時には、頭を切りかえて臨書してみたり、散歩する事もよいでしょう。

作品は、作るというより生れるものだという事を聞いています。「ふっと」肩の力が抜けて書いた時に気ばらない気楽な作品が書けるように思います。

21世紀の書

—私の主張—

「青山杉雨の眼と書」展が上

野国立博物館で7月18日〜9月9日まで開催されました。青山先生は43歳から74歳までの31年間大東文化大学で教鞭をとられていて、私も在学中2年間講義を受けました。大学には当時から一流の書道の先生がたくさんいらっしやいました。そこで4年間に受けられる授業には限りがありました。青山先生の「僕は授業の時間が楽しみなんだ」とおっしゃりながら揮毫される筆運びが魅力的で、次の年

も受けさせていただきました。

今回の国立博での録画映像は懐しくて学生時代に戻った感がありました。その中から印象に残った言葉を記述いたします。「気韻生動の真意―奥に何かがある。それが大事」「書はすべからく奇をもって正となす」「一作一面貌の美学」「たゆまぬ稽古によって培われた確かな技量と研ぎ澄まされた感覚」。そして図録から「われわれが継承してきた書の文化性というものの、つまり書に備わる影を尊重する精神だけはなくしてほしくありません」。心に残る展覧会でした。



「積」

石田春窓書



2007年7月 玉松会11人展

平川峰子書

役員作品巡回展

併催 東京総局展

会期 平成24年10月2日(火)～7日(日)
会場 銀座画廊美術館

実行委員長

滝 春芳

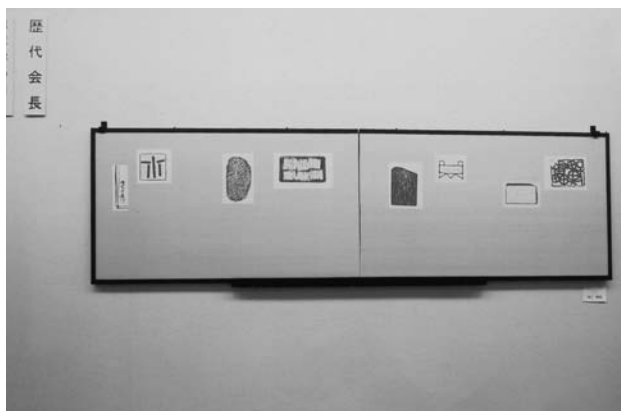
東京総局展は、東京・神奈川・在住者で構成される。

芸術院の秋季展と、同時開催されるので、銀座画廊8階とした。その結果、フロアーは、芸術院・書泉会・馨香会と、華やかで盛会であった。

会場確保のため1年前に役員で、立替払いをし、その後会員に、出来るだけご協力をいただく必要があるため、種々検討の結果、家で飾れる小品にし1点でも多く、出品していただけるようにしなければと、無鑑・一般迄とした。

その結果、113名の方々のご参加を得て、開催にこぎつける事が出来た。10月1日(日)9時半作品搬入、巡回展の47点に続き、東京総局展の作品、歴代会長、香川峰雲・香川春蘭・中島邑水3会長の作品を置いた時には、感激で、胸がどきどきと、高鳴るのをおぼえた。

= 歴代会長作品 =



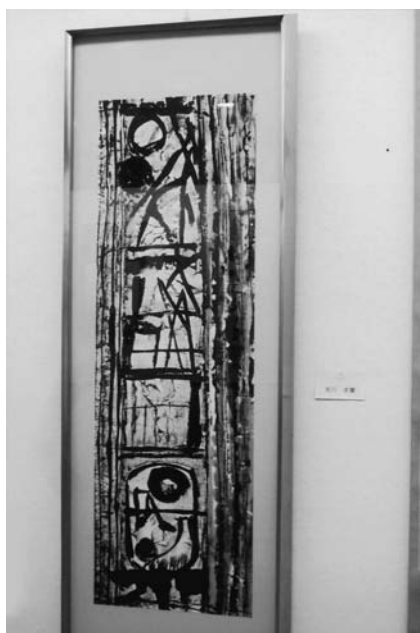
香川峰雲先生の作品

巡回展は東洋額装、東京総局展は、牧野・藤和額装が担当した。

大きな会場とはいえ、総局展の方は、陳列の手伝いに来ていただいた方々と共に、2段掛け、50音順に置いた。みごとにきっちり。一安心した。



中島邑水先生の作品



香川春蘭先生の作品

2日(火)の初日は、開館と同時に、先生方、出品者等々、大勢の入場者でにぎわったが、午後は、秋季展の研究会・表彰式・祝賀会のため静か。

会場を見渡すと、巡回展の作品が、会話をしているように、にぎやかに見えた。会場によって同じ作品が、違って見えるこわさを、知らされた思いで

あった。欲はいえないが間隔がほしかった。しかし歴代会長の3作品が、私達に、新たな力を授けて下さった。

ご来場の方々に、私共の熱意が伝わっただろうとほっとした。

2日目以後も、1日中にぎわっていた。これには、無鑑査・一般迄出品枠

を広げた事、小品にした事で、入場者も多く、若い方々で大いに盛り上げてくれた。

また、東北総局の支援として、チャリティー作品とし、香川先生のご寄付もあり、気持だけではあるが、募金も集める事も出来た。これは、若い仲間の方々に少しでも展覧会の資金にして

いただきたいとの思いからである。7日(日)5時閉会、作品撤回、ともかく皆様方のご協力、お力添で、なんとか無事終了。

最後になりましたが、本部の先生方始め、ご協力くださった方々に、誌面を借りて、御礼申し上げます。



会場入口



会場風景



会場風景

書道芸術院創立65周年記念

役員作品巡回展

併催 南関東総局展

会期 平成24年10月18日(木)～24日(水)
会場 成田山書道美術館

実行委員長(南関東総局長)

板垣 洞仙

前回までの書道芸術院創立記念役員作品巡回展並びに南関東総局展は千葉県立美術館で開催していた。千葉県立美術館は展示室等が広いので、2月の書道芸術院展での一般公募の「準特選」作品・無鑑査の入賞作品・審査会員候補以上の作品をほとんど陳列することが出来た。しかし、今回は千葉県立美術館の改修工事等の関係で、借用することが出来なかった。そこで、成田山書道美術館の2階の研修室を展示会場として開催することになった。この成田山書道美術館の2階の研修室は、千葉県立美術館より非常に狭い。そのため今回の南関東総局展は審査会員以上の約100名が、半紙作品の額2段掛けで陳列した。

成田山書道美術館では企画展として

「小暮青風展」・「千葉県書道協会役員展」とが同時に開催されている。また、成田山新勝寺境内の紅葉や銀杏が色付き始め、参拝客も増えてきて、来場客も毎日平均して多く見えていた。美術評論家の田宮文平先生が20日の祝賀懇親会には都合付かず欠席したので、後日見えられた。更に毎日書道会元事務理事寺田健一様もご来場された。

20日(土)には、成田山書道美術館の1階展示場で記念講演会を開催した。

千葉県書道協会会長 岩波白鵬先生

演題 「千葉県の書について」

書道芸術院 辻元大雲理事長

演題 「書道芸術院の書について」

岩波先生は普段使っている言葉・目にしている文字、例えば(ヨウカンのカンの漢字・サイセンバコのカイの漢字)などの漢字を書けますか。などなどユーモアたっぷりに楽しく講演された。辻元理事長は書道芸術院史と今回の役員作品巡回展の作品のスライド中心に作品解説をされた。

お二人の講演の後、成田駅近くのメルキールホテル成田で祝賀懇親会が開催。小泉一成成田市長はじめ麻生泰久書道評論家・毎日新聞社堀内宏明様・千葉県書道協会岩波白鵬会長から、お祝いの言葉をいただき、宴の会は終始和やかであった。多くのご来賓がご来

臨された。書道芸術院関係では総局役員を除き、恩地春洋会長・香川倫子名誉顧問・村野大仙名誉顧問・大野祥雲常任理事・下谷洋子常任理事・後藤大峰理事・滝春芳理事・石井明子評議員・三森慧香評議員のご出席があった。

成田山書道美術館の方から、70回記念の時は成田山書道美術館で全館使用はどうか、との話も出てきている。しかし、うれしい話ではあるが、成田山美術館の企画展になると、会期が1ヶ月以上のロングランである。大いに悩むところである。

写真 田村鄭雲 記録 板垣洞仙



陳列の様子



岩波白鵬先生による講演会



賑わう展示会場



辻元理事長による研究会



多数の講演会・研究会参加者



多数の祝賀会参加者



祝賀会で理事長挨拶



佐々木青霞
(玄穹)

師や仲間にも恵まれ続けている書道。私が二十年以上も続けてこれたのは、師匠の明るく温かな雰囲気、稽古に惹きつけられ、仲間に支えられてきたからです。今後も少しずつ前進できるように努めたいと思いますので皆様の御指導お願いいたします。

(青霞)



天野白扇
(舂風)

「蒼穹の芯より銀杏吹雪かな」
角川春樹の句
秋の澄みきった空に、黄金色に輝きながら散る銀杏の葉。まるで宝石でも降ってくるような明るさと、秋のピンと張り詰めた空気感を表現したいと思いました。
白を活かす為の黒でありたいと願いながら作品制作を楽しんでいきたいと思えます。

(白扇)

平成24年度 新審査会員作品

天野白扇(現)
佐々木青霞(前)



橋 由紀
(うる)



「蘇東坡詩」
七歳で飯高和子先生に入門。以来二十一年。書だけではなく家族のように育てていただきました。おかげで、生徒と共に書を学ぶことができ、私は幸せです。審査会員拜命を感謝し、今まで以上に精進してまいります。
(由紀)



東平絹子
(大雲)



「一華開五葉」
小学生になり、何か一つ得意なものをと、母に連れられ書道塾へ。その後中断していた時もありましたが、森地先生と出会い、広い見識のもと心細やかな御指導を頂いて、書が一生の宝となりました。ここ数年勉強しております。隸書で、花が笑を結んで繁栄するという禅語を書きました。
(絹子)



鉦 匡子
(玄象)



「恕」 座右の銘と書いています。
この度は、昇格させて戴き感謝いたします。村野先生には長年ご指導いただき、又多くの方々にも思われました。今後も初心に戻り「強い線」「深い線」を目指して勉強して参ります。
(匡子)



山田翠香
(百合)



「つきぬけて天上の紺 曼珠沙華」
山口誓子の句
紺碧の空に向かってすくと立つ曼珠沙華は亡き母との遠い日の思い出の花です。その頃から歩み始めた書の道はまだまだ精進を重ねていかなければと痛感しております。これまでご指導頂いた諸先生方に深く感謝申し上げますとともに、これからも宜しくご指導の程お願い申し上げます。
(翠香)

特別研究部臨書課題

Ⅱ(毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可

〔解説〕 模刻本は既に宋代あたりから存在した

らしく、明代にも数種の模刻本があった。明の王世貞が持っていたのも重刻本で、一般にはこの模刻本を真本と思っていた人が多かったようである。清初の孫承沢の所蔵本も翻刻だったようだが、彼は「この碑は円勁にして深厚、なお古隸の

遺意を存し、これその得意の書である」と言っている。

我が国へは明治初年、楊守敬が来朝した時、この碑の双鉤填墨本を持参、日下部鳴鶴がこれを木版に刻って広められ、その書風が享受された。

(編集部)

用紙 半紙普通判
左の法帖の中から

何文字臨書してもよい。
(掲載部分以外は不可)

※落款を必ず入れる

署名、もしくは

〇〇臨

(押印のみも可)



白玉之簡。祈西王而
可_レ值。青雲之衣。師東
陵而易襲。豈非_二度世
之寶術。登遐之妙道_一

毎日展公募サイズ以内・縦横自由
左記の掲載以外も可

注 かな研究部競書作品は、左の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)
・落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)
・用紙は半紙普通判(料紙可)〈たて長に使用〉
別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は、半紙サイズに切って使用のこと。

〈よみ〉

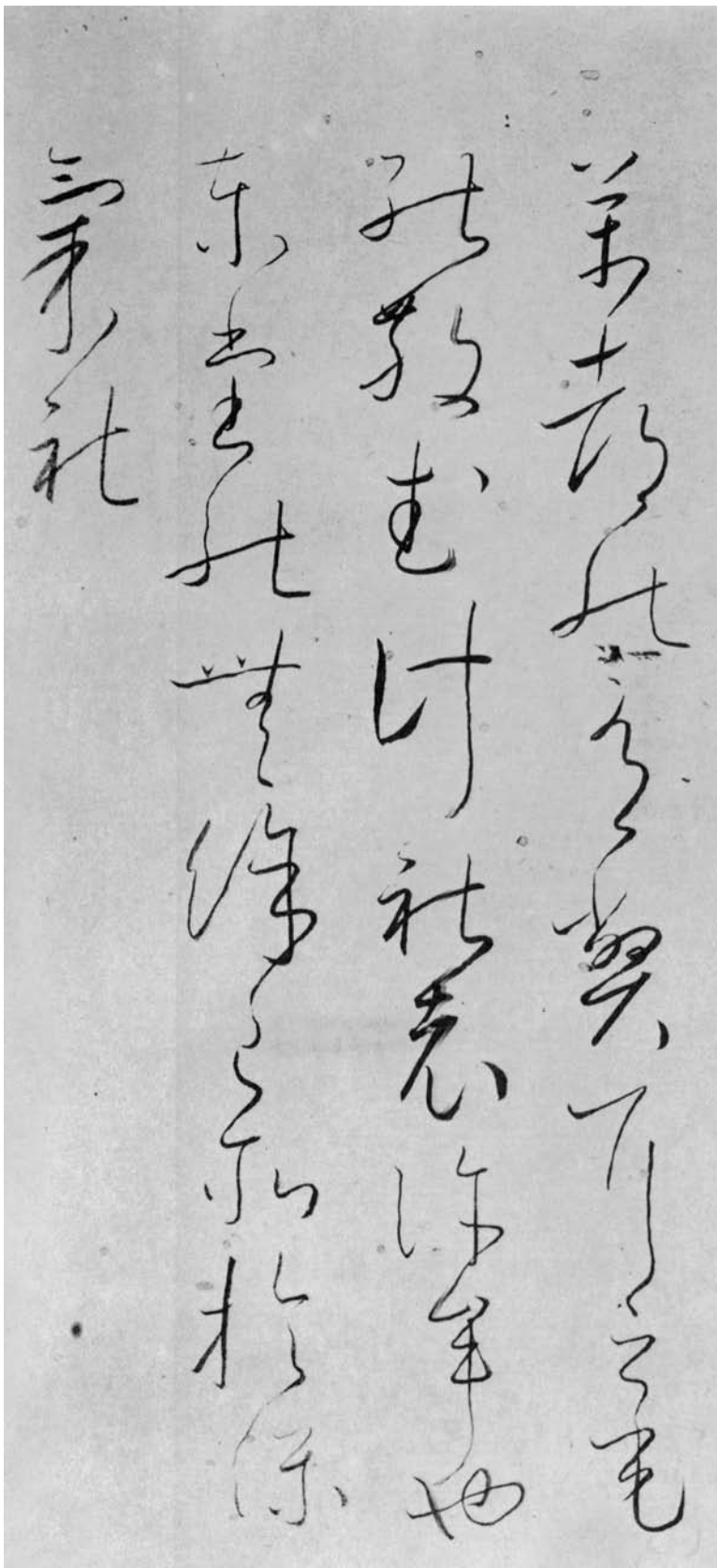
万部能有耳之毛
まつうへにしも
能敷成札者許半也
のさむければこむや
東堂無難己所於無
とたのむよこそおほ
けれ

〈解説〉

秋萩帖のような和歌の四行書きは、平安時代から歌の正書式にされていた。四行目は他の三行より短く、約九字・十字・九字・三字の割合で一首三十一文字を書く。古筆のなかで、この四行書きが見られるのは、秋萩帖の他綾地歌切(伝藤原佐理)・蓬菜切の二首(伝藤原行成)・曼殊院本古今集(伝藤原行成)・十五番歌合(伝藤原公任)などである。
秋萩帖は、第一紙の二首、第二紙以下の四十六首も全てが四行書きである。第一紙は新しい紙が用いられているが、第二紙以下は反古紙(淮南鴻)

烈兵略間詰第廿卷の裏面)が使われている。

また、四十六首の和歌の後、巻末に、王羲之の尺牘の臨書も書写されている。これは、この歌が、独立した本として書かれたものでないことを意味し、またそれが王羲之の臨書であることも、手本用として書かれたものと言われる所以である。
なお、紙背紙継ぎの花押は伏見天皇自筆のもので、天皇遺愛の品だったことを物語る。(編集部)



(93%縮小)

漢字規定 初段以上 【二月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

最首翠風選書

習い方解説 (三)

最首翠風

丹楓葉落寒
(丹楓葉落ちて寒し)

人間の筆遣いを正確に再現するロボットが開発されたという記事を新聞で読みました。これ迄難しかった微妙な筆圧も再現できること。

ロボットでない私達は毎日の作品にも自分らしさを出したいものです。手本をまねぶ(学ぶの語源という)のも勉強ですが、それだけではロボットと同じ、いやロボットにかなわないかもしれません。

参考手本や先生の手本を学んだらそれにプラス・ワン。「私だけの創意、工夫」を加えた一枚を試してみましよう。「手習い」からの脱出です。「ものまね」の楽しさから創作の喜びへ。師範位の会員には当然のことでしょう。

参考作品は堅い牛耳毫の筆を用い潤濁の表現し易い単宣の半紙を使っています。



丹楓葉落寒

よみ (丹楓葉落ちて寒し)

書体||自由

漢字規定 秀級以下 【二月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

小浜大明 選書

望雲之情
大明

望雲之情

よみ (望雲の情)

書体 楷書

習い方解説 (三)

小浜大明

望雲之情
(望雲の情)

今回も前回同様「歐陽詢」の書風を参考にして書いてみました。画の粗密のある語句です。最初に書いた、画数の多い文字は大きく、少ない文字は小さくを念頭に表現してみてください。

「望」の「月」や「王」の間隔を均分すること。

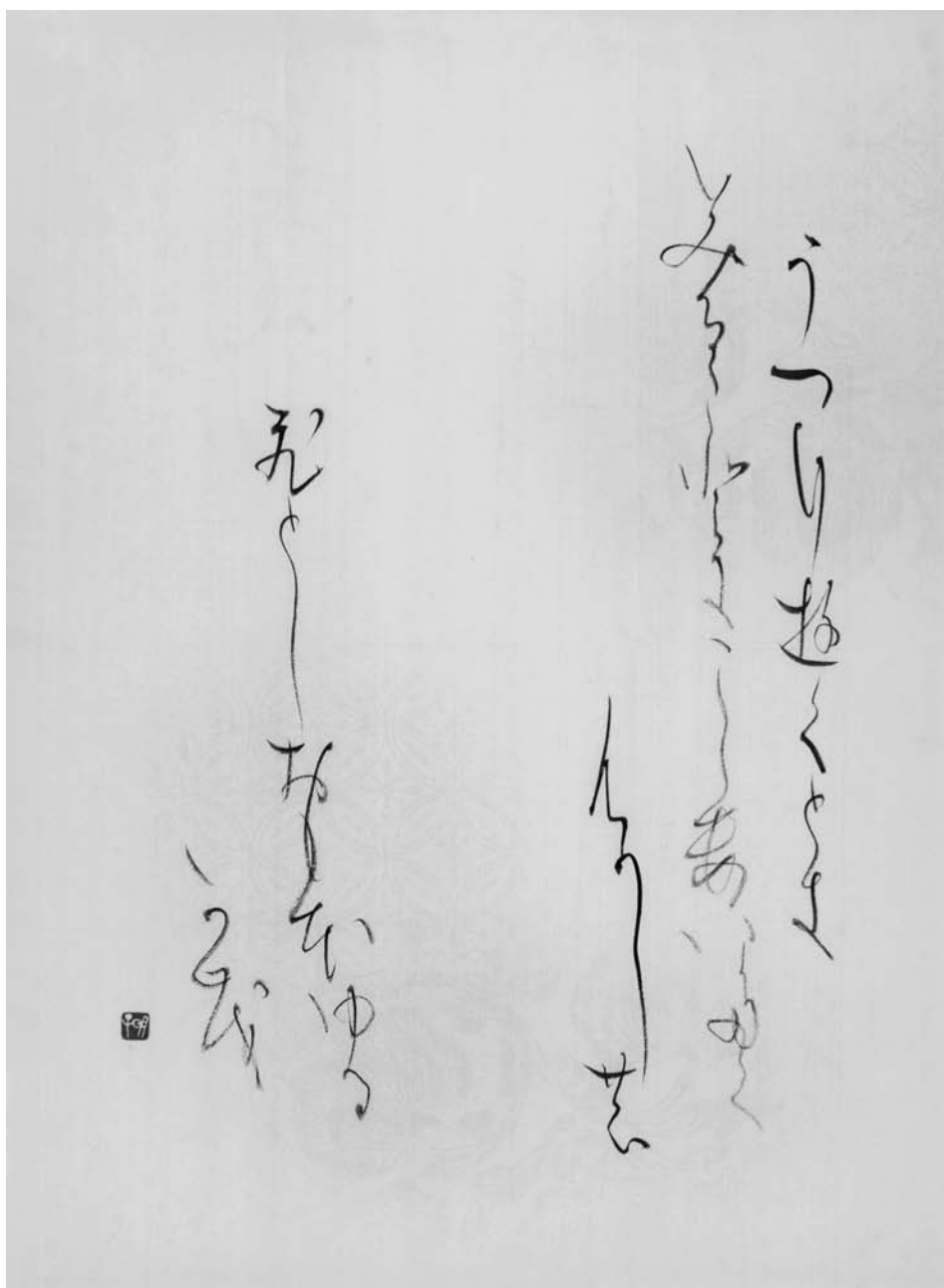
「雲」雨冠は横に広く、「雨」の縦画と「云」の間に空間をつくる。

「之」の(1)の空間はできるだけ小さくし、(2)の空間を大きくとる。

「情」りっしんべんの点は、左を広く右は縦画に軽く接する。

かな規定 初段以上 【二月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判(料紙可)

石井明子選書



習い方解説 (三)

石井明子

移り行く時見ることうつりゆくときみることにこころいたく
昔の人し思ほゆるかも (萬葉集)

歌意は、移りゆく時の流れを見ることに心が痛み、古人がつくづく偲ばれる、です。万葉の表記では、「宇都里由久 時見其登介 許己呂伊多久 牟可之能比等之 於毛保由流加母」です。日本固有の漢字での表現です。漢字でやまと言葉を表記したわけです。

過日、古谷蒼韻展を拝見し、とりわけ萬葉集の作品が心に残りました。長年、追いつけていたものへの深い思いから生まれる優しく美しい線に魅了されました。墨の色がこんなにも多様に感じられた書展も極めて稀なことでした。

書の世界では問題視されていないことですが、かな成立以前の歌をかな作品に書くことに疑問を投げかけられたことがあります。私の中で?はやや残っています。

よみ方

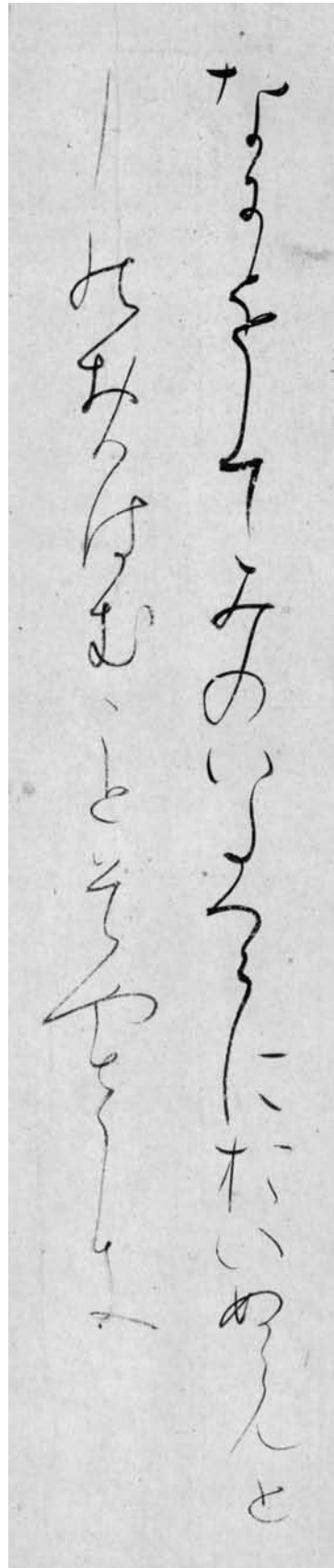
うつりゆく(遊)く(久)とき(支)み(美)る(と)登(に)爾(こ)こ(ろ)妻(いた)多(多)く
む(无)か(可)し(の)農(ひ)飛(と)しおも(毛)ほ(本)ゆるか(可)も(茂)

創作

かな規定 秀級以下 【二月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ1½ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全臨、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種
(掲載写真縮小93%)



よみ方 なに(尔)をしてみのいた(多)づらにお(於)いぬらんと

しの(能)おも(无)はむことぞやさしき(支)

習い方解説 (三)

天海 矩子

ほんのりと茶の花くもる霜夜哉
(正岡子規)

子規句集より「初めの冬」と題
する中から選んでみました。

まず、五文字で始め、二行目を
寄り添わせて立体感を出しました。
この二行が直立しないように、ま
た墨継ぎの個所も大事です。工夫
してみましよう。

※たて形式に限る

かな条幅規定 【二月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切 (料紙可)

天海 矩子 選書



よみ方 ほ(本)ん(无)のりと茶の花く(九)も(毛)る霜夜(与)哉

創作

漢字条幅規定 初段以上 【二月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

辻元大雲 選書



故里音書寒雁杳 空江雲樹暮天低
(故里音書寒雁杳かに空江雲樹暮天低る。)

(黄観)

書体||自由

習い方解説 (三)

辻元大雲

冬の夕暮れ的情感を詠んだ句です。「音書」は便りのこと。

今回は連綿を取り入れた行草書表現です。文字を連続させて書くことを連綿といいます。が、実線で強く続ける部分と、意連といって実線は見えなくとも気脈を連続させるのも連綿です。要は一文字書き終えてから続けるのではなく次の字の初画まで一気にか肝要。

漢字条幅規定 秀級以下 【二月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

小伏小扇 選書



楓林江色寒
(楓林江色寒し)

(陳旅)

書体||自由

習い方解説 (三)

小伏小扇

楓樹の影を落して川の景色はいかにも寒そうであるという陳旅の句です。

詩句の情景を心に描きながら、文字の大小、字画の太細にも気を配り、二字を連綿してみました。一貫した流れを大切に、伸びやかな運筆を心がけました。

一衣帯水

一衣帯水…一筋の帯のように、細く長い川や海峡。転じて、両者の間に一筋の細い川ほどの狭い隔たりがあるだけで、きわめて近接しているたとえ。「衣帯」は衣服の帯。細く長いたとえ。蒼玄書

用紙IIはがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体II自由

習い方解説 (三)

千葉蒼玄

尖閣諸島など近頃は国家間の摩擦も強まってきた。他民族は考え方も習慣も違うが「一衣帯水」のようにありたいものである。

今月は4字熟語を選んだ。初めに草書で書き、その意味、解説を小さくボスターのような構成にしてみた。草書のほうは回転が主体であるからどうしても早書きになるが、ゆっくりとした運筆に心がけることが大切である。解説文のほうは楷書、行書であるので直線を主体として点画をしっかりと引くように心がけた。

文意には「両者には細い川があるだけで…」とあるが、その川は深くないことを願いたい。

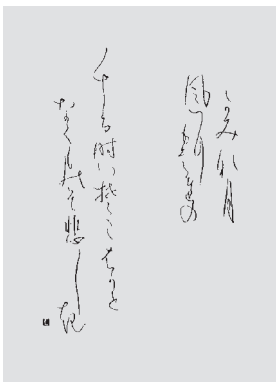
※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

木一作品 各部総評

NO. 618

かな部 師範 伊藤 英子

参考手本をしっかりと理解し、尚且掌中にしたリズムが美しい。文字の大きな墨量とも適格で快い。◎かな部総評 創作は出来るだけ料紙を用いたが、質によって墨色の現れ方も異なるので薄すぎず濃すぎずの工夫が大切。(洋子評)



漢字条幅部 師範 板橋 雅邦

濃墨による艶やかな線質の行書表現。軽妙なりズムで暢びやかな渴筆が魅力。連綿線やや冗漫か。◎漢字条幅部総評 上下級共書体自由の条幅部は色々な工夫、挑戦が出来る。普段の基礎練習を応用して積極的な取り組みを。(大雲評)



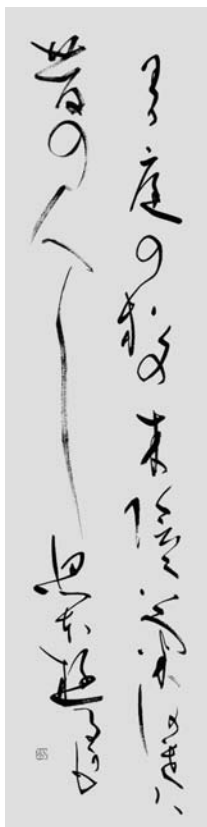
現代詩文書部 特選 梅澤 七生

濃墨で引かれた強靱な線が潤濁の変化を生み爽やかな余白を生み出している。筆端に味わいが欲しい。◎現代詩文書部総評 様々な取り組みがあり面白い。文字を書くからには形と線質が大切。(鄭雲評)



かな条幅部 師範 佐藤 公美

無理のない運筆にゆえがあり、明るい。大胆な線、抑制のきいた線の変化が見事で斬新さが漂う。



前衛書部 特選 蒔苗 真紀

周到な構成と日頃の鍛錬を観る者を感じさせる。鍋島焼の皿を連想、技芸の品格が漂う作品。◎前衛書部総評 願いが叶い感激。全作に冒険と持ち味の主張を感じた。更なる前進請う。(慧香評)



◎かな条幅部総評 草書の菊に誤字が散見で残念。全体にはレベルが高かった。墨量過多、字粒過大は品性を欠くので注意。(明子評)

ペン字部 師範 落合 敏子

一点一画が非常に丁寧で又リズムもある。懐が広く全体に力強さを感じる秀作である。

◎ペン字部総評 漢字とかなの調和が大切な課題である。しっかりと書いた秀作、力作が多かったが流れずの作品も見られた。(蒼玄評)

月日は百代の過客にして
行かふ年も又旅人也。
舟の上を生涯をうかべ馬の
口とらえて老をむかふる物は
日々旅にして旅を栖とす。
芭蕉おくのほろ道より 敏子書

漢字部 師範 奥田 嵩柏

超濃墨を駆使して響きの高い渴筆を生み出した。一点一画に作者の息遣いまで感じられ見飽きない。◎漢字部総評 半紙は絵のキャンパスに当たります。限られた空間に文字をどんな大ききで、どこに置かか配慮が不可欠です。(翠風評)



今月の

特別研究部優秀作品(特選)

漢字

(惠雅)

板橋雅邦

「鳳凰臺上」



184×61cm

板橋雅邦書

◆線の中に呼吸の姿が見られるよう。リズムミカルな筆の動きがその様子を見せてくれ楽しい作品。
(倫子評)

(倫子評)

◆墨量の抑制の美しい作品です。丁寧なタッチが上質の詩の世界を醸しています。書は詩心の結晶です。
(明子評)

(明子評)

◆渴筆を主体とした明るい隸書作。潤濁の変化がリズムを醸し出す楽しい作。やや浮きすぎた線が気になる。
(大雲評)

(大雲評)

◆隸書の特徴をよくとらえて表現している。石門頌を思わせる線質は抜群だが字形に不安定な所がある。
(蒼玄評)

(蒼玄評)

現代詩文書

(翠柳)

加藤紫翠

「自詠」

加藤紫翠書 49×170cm

◆自らのみちのく蔵王への感懐を淡々とした境地で謳い上げ、自然な筆脈の流れで表現する。清澄な作。
(大雲評)

(大雲評)

◆視覚的にリズムを感じ、詩を読んで味わい深くなりました。一字ずつ、愛らしい形で好ましい作品。
(明子評)

(明子評)

◆突き差すような筆致で深い線である流れはあるが後半部で息を抜く箇所があれば、更に作品が広がる。
(蒼玄評)

(蒼玄評)

◆一字一字読む前に全体から表現にリズムを感じさせてくれる。墨だまりの配置が所を得ているからか。
(倫子評)

(倫子評)

前衛書

(四谷)

角田悠香

「初冬の朝」

◆中央部の広い余白と右上から左下へと鮮烈に展開した構成が印象的な作。下部やや狭かったか。
(大雲評)

(大雲評)

◆余白を包み込む運筆が、大らかで形がよい。偶然の小さな飛沫が、作品に深さを生み出して魅力あり。
(明子評)

(明子評)

◆空間を大きくとらえ雄大な作である。中心部の空間に墨の飛沫が響き白を圧して素晴らしい作である。
(蒼玄評)

(蒼玄評)

◆上部と下部と比較してやや上部が弱い感じがする。思い切りのよい余白の取り方が動きある作品に。
(倫子評)

(倫子評)



137×70cm

角田悠香書

漢字 (もく)

西川藤象

「春寒」



西川藤象書

175×56cm

◆字形の良さ、構成力の確かさは安心感があり、見飽きることがない。横画の長さで傾きに変化を望む。(明子評)

◆七言絶句を二×六尺に三行構成で展開。二行目までの動きに対し三行目やや鈍かったか。(大雲評)

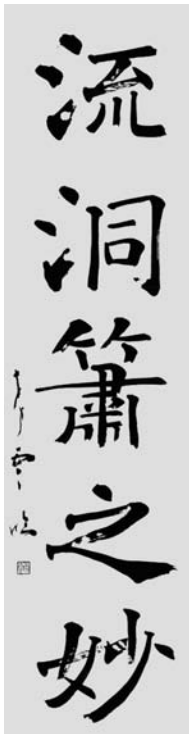
◆筆を流れに乗せて表現。一本一本に息づかいを感じさせてくれる。やや右上りが強い動きが目につく。(倫子評)

◆章法をよく心得て流れもあり白眉である。中心部に右上りの横画が並んだのは一考を要する。(蒼玄評)

臨書 (大雲)

佐藤希雲

「孟法師碑」



佐藤希雲臨

137×35cm

◆中細字臨書作が多かった中、半折一行書きを取り上げる。緊張感ある歯切れよい筆致が爽やか。(大雲評)

◆ゆったりとした感が現代的に心に響いてくる。臨書とは原本を如何に汲み取って習うのかが肝心。(倫子評)

◆臨書をどうとらえるか。この表現も又一つの解釈であろう。臨書というより作品として光る作である。(蒼玄評)

◆臨書の楽しさを味わい尽して、楽しんでの表現と見ました。余韻を残せる創作としての臨書は美しい。(明子評)



53×169cm

前田まさ美書

かな

(卯月)

前田まさ美

「秋の夜」

◆筆の流れに淀みがなく息づかいを感じさせてくれる。歌をよく理解しての作品作りか。(倫子評)

◆そつなくまとめ、かなの流麗さを表現している。中心部盛り上がりほしいのは近代詩的発想か。(蒼玄評)

◆牧水の静けさを見事に漂わせ、情感あふれる作です。更に墨量変化が出ると、奥行が増すのでは？(明子評)

◆若山牧水の秋の夜の歌を流麗な筆致で横展開する。潤渾の変化もバランスよく安定した作である。(大雲評)

創作の部(50点)

漢字 12点

かな 5点

現代 17点

篆刻 1点

前衛 15点

臨書の部(19点)

漢字 18点

かな 1点

総出品点数 69点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

〔漢字〕

墨宣 小林 翠芳

大雲 長島 僊雨

苑書 武山 櫻子

〔かな〕

新谷 嵐泉

〔現代詩〕

炎佳 佐藤 華炎

翠柳 鈴木 翠夢

〔前衛〕

蓮紅 大友 紅蓉

湘南 佐藤 詠子

四谷 野口 加奈

〔臨書の部〕

〔漢字〕

森地 東平 絹子

竜泉 小林 洋龍

英峰 渡邊 多佳

咲舟 原 京子

千葉 小林 咲舟

〔かな〕

うる 川崎小枝子

漢字研究部
(孟法師碑)

選評名越蒼竹

今月のホープ作品



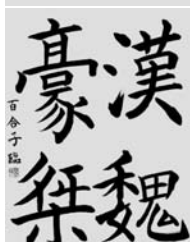
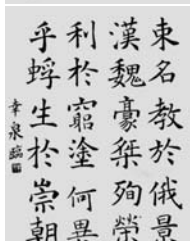
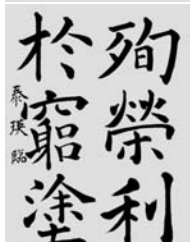
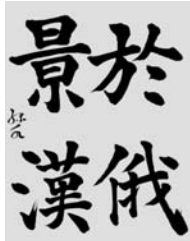
奥川麗流

漢字研究部 特選 奥川麗流
原帖の特徴を的確に捉え、線にも張りのある堂々たる臨書です。特に終筆部における神経のこまやかさは抜群で、小さい画の運筆にもスキがありません。半紙の下部に多めの余白が生じたのは章法上やや残念でした。

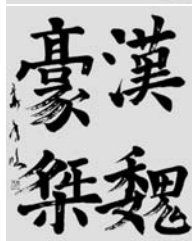
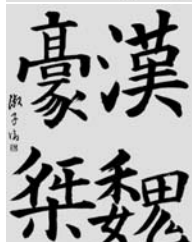
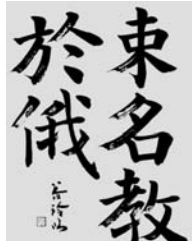
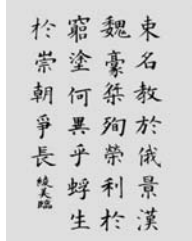
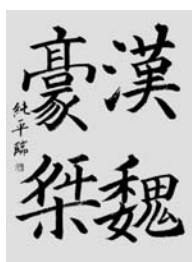
◎漢字研究部総評

孟法師碑は唐代の褚遂良の手になる楷書です。

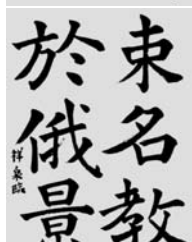
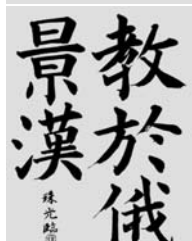
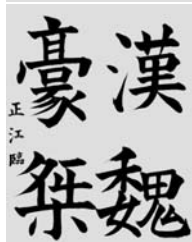
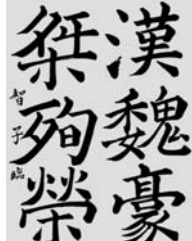
分かり切ったことを敢えて書くのは、審査して北魏書のように書いたものや、虞世南あるいは顔真卿の楷書のように書いたものかなり沢山見受けられたからです。それらの中には自運であれば技量の高いと思われる作品も結構ありました。臨書には形臨や意臨など古典に臨む態度に多少の違いがあるものの、知識と観察は欠かすことができません。見よう見まねの姿勢と自分勝手な解釈は危険です。



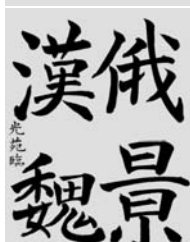
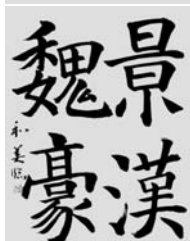
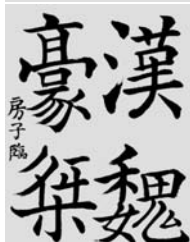
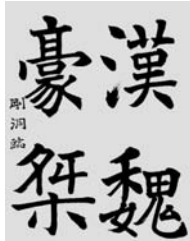
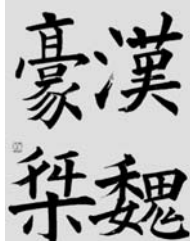
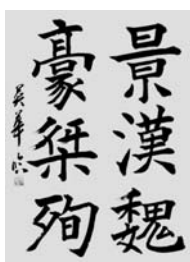
永吉緑泰幸百
合子泉瑛水惠篁



純綾谷淑華
平美玲子香雲



鶴智正珠祥
子豐城江光泉

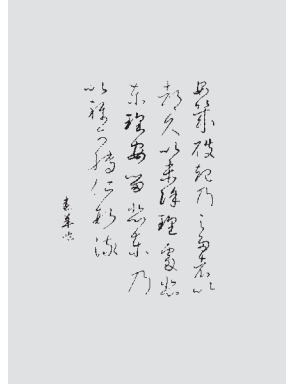


英美剛房和光
華梢洞子美苑

かな研究部
(秋萩帖)

選評 善養寺 紅 風

今月のホープ作品



宇田川 春 華



永輝 龍由 純雲 知英
子子 美恵 汀卿 子鶴
子子 夫子 風 子子

おだやかで気品が高く、見るほどに深い味わいが湧いてくる線、悠々と流れる線の動きは見事です。よく調べて正確に書かれています。

◎かな研究部総評
第一紙は、把握しにくい部分ですが、格調の高さを兼ね備えています。「仁」「数」に誤字があり残念な作品がありました。正確に調べて書く事を望みます。

かな研究部成績表

和誠大生遊も松村	高紅千子正千岩た書華A千書正	電小千奥明正澄	宇田川春華
井市磯石池田新久	岩茂飯吉佐野石梅加藤西原浜野江波加藤神小吉伊石	龍雲純風	知英子
上川員橋ひさ尚藤	英順清瀧二	秀運	千鶴子
阿部 雅悠	東昌英竹英千澄は土遊翠英郷安志正樹明か生春清月泉駒上駒雲雲高たか澄春	梅山木井	宇田川春華
荒足青木	山本和由裕真紀江	高野山	高野山
利寿三郎	山本和由裕真紀江	高野山	高野山
京橋 吉田	山本和由裕真紀江	高野山	高野山

かな研究部 特選 宇田川春華